



區別サルベキ經濟生活ノ二様式([1])

丸谷, 喜市

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 22(3):441-456

(Issue Date)

1917-03

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052671>



區別サルベキ經濟生活ノ二樣式

長崎高等商業學校教授

商學士 丸 谷 喜 市

左ノ一篇ハ筆者が嘗テ長崎高等商業學校創立第十周年記念講演及論文集ニ寄セタル「物ノ經濟ト貨幣價值ノ經濟」ナル一小論文ト其論旨ニ於テ大差ナキモノナリ。今重ネテ同様ノ主張ヲ試ムル所以ハ一ニハ曩ニ本誌ニ寄セタル資本ノ概念ニ關スル私論（第二十一卷第六號所載「資本ノ概念ニ就テ河上博士ノ教ナク」）ノ一部ヲ補足セントスルノ主意ニシテ、又一ニハ此見解ハ筆者ノ學問的知識ニ於テ根本的ナル一要素ヲ成スモノナルが故ニ此機會ニ於テ更ニ思考ノ整理ヲ行ヒ以テ江湖ノ批判ヲ仰ギ置カントスルモノナリ。讀者之ヲ諒セヨ。

一 序 言

筆者ノ見ル所ヲ以テスレバ、凡ソ人類ノ曾テ經驗シ、又現ニ經驗シツ、アル經濟生活ニハ區別スルコトヲ要スル二個ノ方面、乃至二個ノ樣式アリ。ソノ二樣式ハ了解ノ速カナラン便宜ノ爲メニ今假リニ之ヲ呼ンデ物ノ經濟ト、貨幣價值ノ經濟ト言ハントス。而シテ此二樣式ハ必ズシモ敢テ新奇ナル區分ニハ非ザルモ、而モ之ニ對スル正當ナル理解ハ種々ノ點ニ於テ經濟現象ニ對スル妥當ナル解釋ヲ助ケ、從來ノ經濟學說ノ上ニ多少ノ更改ヲ要求スベキ理由アルコトヲ首肯セシムルニ足

ルベシト信ズルモノナリ。先ヅ經濟生活ノ發展ニ對スル貨幣ノ重要ニ就テ考察ヲ試ミ、次デ謂フ所物ノ經濟ト貨幣價值ノ經濟ノ意義ヲ明カニスベシ。

二 經濟生活ノ發展ト貨幣ノ重要

ブルノ・ヒルデブランドガ人類經濟生活發展ノ經過ヲ(一)自然經濟時代(二)貨幣經濟時代(三)信用經濟時代ノ三段階ニ分チタルコトハ何人モ知ル所ナルベシ。而モ此種時代別ニ關スル如何ナル學說ニ依ルモ以テ一切ノ種族、一切ノ民族ガ經過セル經濟生活ノ各種ノ狀態ヲ統括スル能ハザル如ク。此ノヒルデブランドノ學說ニモ亦幾多ノ非難アルナリ。非難ノ要旨ハ學者ニ依リテ同ジカラザルモ筆者ノ見ル所ヲ以テスレバ、此學說ノ最モ重大ナル缺陷ハ全體トシテ甚シク其權衡ヲ失セルノ點ニアリ。即チ自然經濟時代ト貨幣經濟時代トノ對立ハ寔ニ適切ナレドモ、此二者ニ對シテ信用經濟時代ナルモノヲ立テタルコトハ如何ニモ調和ヲ得ザルモノト言ハザルベカラズ。蓋シヒルデブランドノ時代別ハ交換ヲ標準トセルモノニシテ其ノ所謂自然經濟時代ナルモノハ必ズシモ交換ナシト言フノ意ニハ非ズ。又必ズシモ全然貨幣ヲ缺クノ時代ヲ指スニモ非ズ。交換アレドモ實物交換タリ、貨幣アレドモ自然貨幣ニシテ、人爲ノ產物、社會的ノ產物タル貨幣、就中金屬貨幣ヲ使用スル

コトナキノ時代ヲ意味スルナリ。此ノ如キ狀態ノ下ニアリテハ交換ハ偶々行ハルルコトアリトスルモ幾多ノ困難アリテ到底廣キ範圍ニ互リ且頻繁ニ行ハル、ヲ得ズ。隨テ交換ハ到底經濟生活ノ重要ナル要素ヲ成スニ足ラズ、此場合ニ於ケル經濟生活ハ依然トシテ所謂自足經濟タルノ本質ヲ變フルコトナキモノト言フベシサレバ此時代ハビュツヒアーノ所謂封鎖的家族經濟時代ニ該當スルモノト見テ大過ナキモノナリ。此ノ如キ時代ト、貨幣發達シ交換之ニ隨テ盛ニ行ハレ、一切ノ經濟活動ハ貨幣價值ヲ以テ其ノ目標トナスニ至レル所謂貨幣經濟時代トヲ對照スルニ此二時代ノ相違、此二時代ノ間隔ハ極メテ重大ニシテ、自ラ顯著ナル一段階ヲ成スコトヲ知ルベシ。卽チ前者ノ時代ニアリテハ交換ハ必ズシモ行ハレザルニ非ザルモ而モ唯偶發的ニ行ハル、ノミニシテ、ソハ毫モ其ノ時代ニ於ケル經濟生活ノ核心ニ觸ル、ノ問題ニハ非ズ。然ルニ後者ノ時代ニアリテハ交換發達ノ結果茲ニ初メテ交易經濟社會ノ成立ヲ見ルコト、ナリ、交換ヲ前提トスル社會的經濟生活ノ存立ヲ見ルコト、ナル也。然ルニ更ニ進ンデ此ノ如キ貨幣經濟時代ト信用經濟時代トヲ比較スルトキハ其相違ノ甚ダ言フニ足ラズ、其間隔ノ甚ダ狹小ナルコトヲ想ハズンバアラズ。詳言スレバ前述ノ自然經濟時代ト貨幣經濟時代トハ全然

ソノ面目ヲ異ニスルモノニシテ其對立ハ各時代ノ經濟生活ノ本質上ノ相違ニ相應スルモノナルニ反シ。貨幣經濟時代ト信用經濟トノ間ニハ何等斯クノ如キ顯著ナル本質的相違ヲ見出スコト能ハザルナリ。固ヨリ所謂信用經濟時代ニ於テハ信用及ビ信用機關ノ發達ニヨリテ、先キニ貨幣ノ作用ニヨリテ助成セラレタル交換ハ益々發達シ、交換ヲ前提トスル社會的經濟生活ハ更ニ同一ノ傾向ニ向テ一段ノ進展ヲ遂グルト雖モ、而モ之ヲ要スルニ貨幣經濟時代ノ延長タルニ過ギズシテ其間到底前二者ノ間ニ於ケルガ如キ本質的差異ヲ見出ス能ハザルナリ。即チ信用如何ニ發達スルモ吾人ノ經濟活動ノ動機ハ依然トシテ貨幣ヲ獲得セントスル事ニ存シ、一切ノ經濟的價值ハ貨幣價值ヲ以テ計量セラル、事依然トシテ舊ト異ナル所ナキナリ。之ヲ要スルニヒルデブランドノ說ハ何等重大ナル過誤ヲ含ムモノニ非ザルモ、全體トシテ均勢ト調和トヲ得ザルノ憾ミアルモノト言フベシ。

ソハ兎モ角トシテ、ヒルデブランドガ上述ノ如ク貨幣ニ着眼シ、經濟生活ノ「エボック」ヲ貨幣ノ作用ニヨリテ別タントセルコトハ洵ニ卓見ト言ハザルベカラズ。蓋シ財貨交換ノ手段タル貨幣ハ老ミラボーノ言ヘル如ク思想交換ノ手段タル文字ト共ニ人類ノ最モ偉大ナル發明ノ一ト見ルベキモノニシテ（ミラボート此外ニフ

ランソア、ケチーノ經濟圖表 Tableau Economique ヲ加ヘテ人類ノ三大發明トナセルモ經濟圖表ハ今ヤ經濟學史上ノ一資料タル以外ニ價值ヲ有セズ人類經濟生活ノ發達ハ之ヲ度外視シテハ到底說クコトヲ得ザルモノナレバナリ。

論ヲ進ムルニ先テ貨幣ノ發達ガ吾人ノ經濟生活ニ如何ナル影響ヲ與ヘタルカニ就テ簡單ナル考察ヲ試ムベシ。

第一ニ貨幣ノ發達ガ交換ヲ容易ナラシメタル事ハ餘リニ明瞭ナル事實ナルガ故ニ此點ニ關シテハ説明ヲ省略スルコト、スベシ。第二ニ貨幣ノ發達セル結果ハ一面ニ於テ經濟上ニ於ケル個人的關係ハ漸次疎漫トナリ、他面ニ於テ經濟社會ハ漸次擴大スルニ至レリ。之ト同時ニ各個人ノ關係ハ漸次對等トナリ、自由トナリ、獨立的トナルニ至レルヲ見ル。一例ヲ舉グルナラバ昔時ニ於ケル地主ト奴隸若クハ親方ト徒弟トノ關係ニ於テハ前者ハ後者ノ生活ヲ保障スル代リニ後者ハ前者ニ對シテ全然從屬的ノ地位ニ立テルモノナリ。即チ其關係ハ極メテ密接且ツ永續的ニシテ、隨テ兩者ノ間ニハ直接ノ感化ノ存セルヲ見ル。然ルニ之ト對比シテ現時ノ企業者ト勞働者トノ關係ハ如何ト言フニ此兩者ハ單ニ勞働ノ需要者ト供給者タルノ關係ニ於テ貨幣ナル媒介物ヲ挾ンデ對立スルニ過ギズ。斯ノ如クシテ此兩者

ノ關係ハ又昔日ノ地主對奴隸、親方對徒弟ノ關係ノ如ク永續的ナル能ハズ。勞働者ハ其雇傭者タル企業家ノ提供スル條件ニ満足セザル時ハ輒チ去テ他ノ何レノ企業者ノ下ニ其勞働ヲ提供スルトモソハ彼ノ自由ナリ隨テ其間ニ於テハ又昔日ノ場合ニ於ケルガ如キ人格ノ感化ハ到底之ヲ見ルヲ得ザルナリ。此ノ如ク人ト人トノ間ニ貨幣ガ介在スルノ事實ハ其間ノ關係ヲ漸次疎漫且ツ自由ナラシメ又之ヲ對等ナラシムル上ニ與テ力アリシ事ハ爭フベカラザルノ事實ナリ。斯クノ如ク個人ノ關係ガ疎トナルノ事實ハ即チ他面ニ於テ個々人ノ自由ニ交渉スル範圍ノ大トナルコト、曳イテハ經濟社會ノ擴大スル事ヲ意味スルニ外ナラザルナリ。シユモラー教授ガ『貨幣經濟ナクンバ現時ノ個人主義及ビ人格的自由ハ無カリシナルベク、又現時ノ大國家及ビ其ノ財政竝ニ經濟政策モ存在不可能ナリシナラン』*Ohne Geldwirtschaft ist weder der moderne Individualismus und die persönliche Freiheit, noch der moderne Grosstat mit seinen Finanzen, seiner Wirtschaftspolitik möglich.* (Grundriss, Bd. II. S. 99)ト言ヘルハ流石ニ甚ダ興味アル言葉トシテ領カル、ナリ。第三ニ貨幣發達スレバ一切ノ經濟的價值ハ貨幣價值ヲ以テ計量セラル、事トナリ、一切ノ經濟的企畫ハ貨幣價值ヲ規準トシテ行ハル、事トナル。又貨幣ダニアラバ吾人ハ之ニ代ヘテ容易ニ如何

ナル他ノ財ヲモ取得スル事ヲ得ベキガ故ニ貨幣ハ一切ノ財中第一ニ吾人ノ有タ
ラン事ヲ欲スルモノトナリ、吾人ノ經濟活動ハ先ヅ貨幣ヲ得ル事ヲ以テ其直接ノ
動機トナスニ至ル。斯ノ如クシテ筆者ノ所謂貨幣價值ノ經濟ナルモノ茲ニ起ル事
トナル。即チ以前ノ時代ニ於ケル經濟生活ハ直接ニ物財ノ價值ヲ對象トセル(單ナ
ル物ノ經濟)ニ反シテ此時代ニアリテハ普通ノ物財ノ價值以外ニ貨幣價值ガ重要
ノ地位ヲ占ムル事トナリ、吾人ノ經濟生活(價值生活)ノ一面タル經濟生活ハ貨幣ニ
於テ共通ナル價值ノ尺度ヲ見出し、吾人ノ經濟活動ノ動機ハ貨幣ヲ以テ直接ノ目
標トナスノ常態トナルナリ。又貨幣ノ發達(隨テ交換ノ發達)ニ連レテ分業益々盛ト
ナリ、遂ニハ分業及ビ交換ノ二者ハ吾人ノ經濟生活及ビ社會組織ソノモノ、上ニ
其根幹ヲ張ル事トナリ、吾人ノ經濟生活及ビ社會組織ハ此二者ヲ前提トシ、此二者
ヲ基礎トシテ以テ其存立ト發展トヲ繼續スルコト、ナルニ至ル。蓋シ貨幣ダニア
ラバ之ニ代ヘテ如何ナル財ヲモ容易ニ購ヒ得ルノ豫見アル以上、各人必ズシモ自
己ニ必要ナルモノハ自己ノ力ヲ以テ生産スルヲ要セズ、其ノ代リニ交換ニ依テ最
モ多額ノ貨幣ヲ得ラル、如キ財ヲ最モ多額ノ貨幣ヲ得ラル、如キ方法ニ於テ生
産セントスルニ至ル。即チ各人自己ノ最モ長トスル所ニ從テ、他人ノ需要ヲ目當ト

ナシ、最モ多ク他人ノ需要スル如キ財ヲ生産スル事トナル。換言スレバ生産、否一切ノ經濟活動ハ交換ヲ前提トシ之ヲ第一ノ目的トシテ行ハル、ニ至ル。而シテ生産者ト消費者トノ距離ハ漸次延長シ、財ガ生産者ノ手ヲ出デ、消費者ノ手ニ入ルマデニハ幾回トナク交換ヲ重テ、幾回トナク其歸屬ヲ變ズルノ状態トナルナリ。此ノ如モ状態ヲ稱シテ學者ハ流通(Kreislauf od. Umlauf)ト言ヒ又ハ流通生活ト言フナリ。

飜テヒルデブランド以外經濟生活發展ノ段階ニ就テ說ヲナスモノアリストテレスヲ初メリスト、グローセ、ビュツヒアー、ゾムバルト等ノ諸氏アリテ、諸說各々一長一短アレドモ、畢竟ズルニアラユル種族アラユル民族ノ嘗テ經驗セル經濟生活ノ一切ノ樣式ヲ統合スル如キ時代別ハ吾人未ダ之ニ接セザルナリ。然レドモ、少クトモ次ノ二個ノ事實ハ何レノ民族ニ就テモ立言シ得ル所ニシテ恐ラク何人ノ異論ヲモ買フノ虞ナカルベキナリ。曰ク、

(一)何レノ種族、何レノ民族ニ於テモ其經濟生活ノ極メテ幼稚ナル状態ニ於テハ原則トシテ他ト交換スルコトナク、孤立的ナル共同經濟社會(此場合ニアリテハ家族)ニ依テ其經濟生活ヲ營メルコト

(二)吾人人類ノ經驗セル限リニ於テハ最モ進歩セル人間ハ民族の結合ヲ基礎ト

スル交易經濟社會内ニ生活スルコト、即チ之ナリ。

之ヲ換言スレバ人間ノ經驗セル最モ古キ經濟生活ノ形式ハ非交換經濟即チ自給自足ノ經濟生活ニシテ、其最モ發達セル形式ハ民族的統一國家ヲ基礎トスル流通生活ナリ而シテ前者ノ時代ニ於テハ其經濟生活ハ單ナル物財ヲ對象トスルコトヲ以テ終始スルモノナリ。之ニ反シテ、後者ノ時代ハ單ナル物財ヲ對象トスル以外ニ、若クハソレ以上ニ貨幣價值ヲ以テ其對象トスル經濟生活ノ營マル、時代ナリ。

三 物ノ經濟ト貨幣價值ノ經濟

以上、經濟生活ノ最モ幼稚ナル狀態ハ單ナル物財(交換財タル貨幣以外ノ財、即チ消費財及ビ生産財)ヲ對照トスル經濟生活乃至經濟活動ニシテ、其最モ發達セル狀態ハ單ナル物財ヲ對象トスル以上ニ貨幣價值ヲ對象トスルノ經濟生活乃至經濟活動ナルコトヲ述ベタリ、前者ハ筆者ノ茲ニ物ハ經濟ト言ハントスル所ニシテ、後者ハ貨幣價值ノ經濟ト呼バントスル所ノモノナリ。而シテ以上ハ單ニ史的發展ノ經過ノ上ニ此ノ如キ二様ノ經濟生活ノ形式ヲ分チタルモノナルガ、筆者ハ更ニ現時ノ經濟生活ソノモノ、中ニモ亦此二様式ヲ分タントスルモノナリ。勿論現時ニ、

於テハ吾人ノ經濟活動ハ原則トシテ貨幣價值ノ獲得ヲ以テ直接ノ目的トナシ、吾人ノ經濟活動ハ總テ貨幣價值ヲ標準トシテ企畫セラレ指導セラル、ヲ常トスルモ、而モ此事實ハ毫モ、現時ノ經濟生活ガ同時ニ物財ヲ對象トスルモノナルコトヲ否定スルノ理由トハナルモノニ非ズ。凡テ經濟現象ナルモノ、特質ハ物質的對象ノ價值ニ關スルノ點ニアリ（經濟現象ノ特質如何トハ從來屢々論ゼラレタル所ナレドモ、筆者ハ右ノ點以外ニハ經濟現象ノ特質莫シト信ズルモノナリ。此點ニ關シテハ後日詳論スルノ機會アルベシ）隨テ窮極ヨリ言ヘバ今日ノ經濟生活ト雖モ固ヨリ其根柢ニ於テハ物財ヲ對象トスルモノナリ。所詮物ノ經濟ヲ離レテハ如何ナル經濟モ存立シ得ルモノニ非ズ。唯此ノ如キ經濟現象ガ其ノ特殊ノ顯現ヲ有シタルトキ、若クハ之ヲ特殊ノ方面ヨリ觀察シテ貨幣價值ノ經濟ト呼ブニ外ナラズ。又爾カ見ル事ノ決シテ不當ニ非ザルヲ信ズルモノナリ。尙此關係ハ議論ノ進ムニ從テ明瞭トナルベシ。

四 スミスノ國富論ハ物ノ經濟學ナリ

今試ミニアダム・スミスノ「國富論」ヲ見ルニ其所論極メテ精細且ツ包括的ナレバ其間或ル一貫セル脈絡ヲ捕捉スルコト甚ダ難シト雖モ大體ヨリ言ヘバ氏ノ經濟

學ハ筆者ノ所謂物ノ經濟ニ立脚セルモノニシテ、其學問トシテノ缺點モ亦一ハ茲ニアリト見ルベキニ似タリ。

スミスハ經濟學、即チ當時ノ學者ノ言葉ヲ以テ言ヘバ Political Economy ナルモノハ其著述ノ表題ニ於テ示サル、如ク「國富ノ本質及ビ原因ニ關スル探究」(An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations) ヲ以テ其任務トナスモノト考ヘタルナリ。然ラバ氏ハ何故ニ其著述ニ題スルニ Political Economy 又ハ Principles of Political Economy ト言フ如キ名稱ヲ以テセザリシヤト言フニ、ソハ此書ノ出ヅル九年前即チ一七六七年ニ於テ Sir James Stewart ガ An Inquiry into the Principles of Political Economy ナル著述ヲ出シ居リシガ爲メナリ。尤モ今日ノ考ヘニテハ Political Economy ト言フ如キ表題ノ下ニ或ル著述ヲナスハ恰モ地質學概論又ハ算術ト言フ如キ表題ニテ著述ヲナスト一般ニテ何人モ此ノ表題ニ就テ優先シ又ハ獨占スルノ特權ヲ有スルモノトハ認メラレザルモ、當時ニアリテハ Political Economy ナル語ハ未ダ盛ニ使用セラル、ニ至ラズ、且ツスミスハスチュアートノ著述ト同一ノ出版者ニ依テ出版セントセルモノナルコトヲ思ハ、其間ノ消息自ラ明カナルベシ (A. Smith's "Wealth of Nations" edited by Cannan, editor's introduction. p. XVIII)

此ノ如クスミスハ「國富ノ本質及ビ原因ニ關スル探究」ヲ以テ Political Economyノ同義語ト考ヘタルモノナルガ、斯クシテ等シク國民的立脚地ニ立ツ點ヨリ言ヘバ、スミスノ說ク所ト今日ノ國民經濟學ナルモノトハ相一致スルニ似タレドモ、實ハ大ナル相違ヲ有スルモノニシテ、後者ハ現今ノ時代ヲ以テ長キ歷史的發展ノ經過ヲ經テ到達シタル國民經濟時代トナシ、此時代ニ立脚シテ經濟生活ヲ說カントスルモノナルニスミスハ之ト異ナリ、國民全體ノ立脚地ヨリ國內ノ財貨ヲ量のニ考察シ其國富ノ増減ヲ說カントセルナリ。即チ前者ノ場合ニ於ケル國民經濟云々ハ歷史的意義ヲ有シ、過去ニ對スルノ意義ニ於ケル國民ナルニ、後者ノ場合ハ之ト異ナリ、個人ニ對スルノ意義ニ於ケル國民タルナリ。而シテ此國民的立脚地ヨリ財貨ヲ數量的ニ見テ其増減ヲ商量スルモノナリ。此思想ハスミスノ著述ヲ一貫スルモノニシテ國富(national wealth, national opulence)ノ大小、其増減、一國生產力ノ大小ニ關スル考察ハ彼ノ著述ノ隨所ニ之ヲ見ルナリ。之レ筆者ガ氏ノ經濟學ヲ目シテ物ノ經濟ニ立脚ストナス所以ナリ。

今之ヲ國富論第一卷ニ就テ見ルニ、後日經濟學原論(若クハ原理)ト稱セラル、モノ、内容ハ大部分此卷ニ包括セラル、モノニシテ、題シテ「勞働ノ生產力増進ノ原

因及ビ人民ノ諸階級間ニ其生産物ノ自然的ニ分配セラルベキ秩序ニ就テ〕“Of the Causes of Improvement in the productive Powers of Labour, and of the Order according to which its Produce is naturally distributed among the different Ranks of the People.”ト言フ。之ヲ以テ見ルニ彼ハ此卷ニ於テ所謂生産論及ビ分配論ヲ試ミントシタルモノナリ。此卷ノ劈頭ニ於テ論ゼラル、モノハ分業ナルガ分業ハ彼ノ意見ニヨレバ國民的の生産力ヲ増加スベキ殆ンド唯一且ツ最大ノ方法タルナリ。次ニ此ノ如キ分業發達ノ要件トシテ交換ヲ説キ、交換發達ノ要件トシテ貨幣ヲ説ク。更ニ進ンデ價格ヲ説キ、價格構成ノ要素トシテ賃銀ヲ説キ利潤ヲ説キ地代ヲ説ク。殊ニ價格構成論ニアリテハ個々ノ要素ニ就テ所論詳細ヲ極メ本卷ノ主題トハ寧ロ交渉スル所頗ル薄キヤノ感アルモ實ハ然ラズ。次ノ一句ハ能ク此詳細ナル説明ト本卷ノ主題トヲ連結スルモノナリ。曰ク。

As the price or exchangeable value of every particular commodity, taken separately, resolves itself into some or other, or all of those three parts (wages, profit, rent); so that of all the commodities which compose the whole annual produce of the labour of every country, taken separately, must resolve itself into the same three parts, and be parcelled out among different inhabitants of the country, either as the

wages of their labour, the profit of their stock, or the rent of their land. (Ibid. p. 54.)

(個々ノ財貨ノ價格若クハ交換價值ハ之等三要素——賃銀、利潤、地代——ノ一若クハ總テニ分解スルコトヲ得ルガ如ク、一國勞力ノ年生產額ヲ構成スル一切ノ財貨ノ價格モ亦此三要素ニ分解セラルベク、隨テ或ハ賃銀或ハ利潤或ハ地代トシテ國內諸種ノ人民ノ間ニ分配セラルベキモノナリ)

之ヲ以テ見ルニ彼ノ價格構成論ハ實ハ其ノ分配論タルナリ。

又スミスハ「マーカンチリズム」ヲ攻撃スルニ當リテモ獎勵金ノ下附特殊產物ノ輸入ノ制限其他ノ方策ハ一國資本ノ全體ヲシテ最モ生產的ナル方向ニ利用セラ、事ヲ妨グルモノナルガ故ニ不可ナリトナスナリ。蓋シ彼ノ見解ニ從ヘバ個人ノ自由ナル經濟活動ハ自ラ一國資本ノ全體ヲシテ最モ有利ナル方向即チ最モ生產的ナル方向ニ向ハシムルモノナルニ、或ル保護的政策ニ依テ或ル特種ノ產業ニ保護ヲ加フル如キハ、資本ガ斯ノ如ク自ラニシテ最モ有利ナル方向ニ就テ事ヲ妨グルモノニシテ畢竟ソレダケ一國生產力ヲ減殺スルノ結果トナルナリ。

スミスハ上述ノ如ク物ノ經濟ニ立脚シ、常ニ國富如何ヲ以テ其目標トナスト雖モ現時ノ經濟生活ハ他ノ一様式タル貨幣價值ノ經濟ヲ無視シテハ到底之ヲ說ク

ベカラズ。隨テスミスノ論述ハ至ル所此方面ニ關スル説明ヲ多量ニ含メリ。然レドモソハ畢竟物ノ經濟ヲ説明スルノ手段トシテ若クハ物ノ經濟ノ或ル狀態ニ至ルノ過程トシテ論ゼラル、ニ止マリ特ニ此貨幣價值ノ經濟ニ立脚シテ或ル一團ノ叙説ヲ試ムル所毫モナキナリ。重テ國富論第一卷ニ就テ言ヘバ、既ニ述ベタルガ如ク、此部分ニハ交換貨幣價格ト言フ如キ貨幣價值ノ經濟ニ關スル問題ヲ含ムコト決シテ少ナカラズ。而モ其説明ノ一半ハ生産論ニ於テセラレ、他ノ一部ハ分配論ニ於テセラレ、ナリ。例ヘバ交換論、貨幣論ハ分業發達ノ要件換言スレバ國富増進ヲ手段トシテ論ゼラレ、價格論殊ニ價格構成ノ各要素ニ關スル説明ハ即チ分配ノ過程トシテ論ゼラル、ニ外ナラザルナリ。

斯ノ如クスミスハ貨幣價值ノ經濟ヲ全然無視セルニハ非ザルモ、之ヲ論ズルヤ常ニ物ノ經濟ニ從トシテ若クハ其手段トシテ之ヲ論ゼルニ外ナラズ。加之貨幣價值ノ經濟ヲ説クニ當リテハ動モスレバ之ヲ物ノ經濟ニ還元セントセルコトハ注目ニ値スル事實ナリ。即チ彼ハ價格ヲ論ズルニ當リテモ名目價格ト實際價格トヲ分チ、貨幣ヲ以テ表示セラル、名目價格ヲ穀物又ハ勞力ヲ以テ計量セラル、實際價格ニ還元シテ之ヲ考察スベシト言フ (Ibid. Bk. I. Chap. V) 又所得ニ就テモ "A guinea

may be considered as a bill for a certain quantity of necessities and conveniences upon all the tradesmen in the neighbourhood. The revenue of the person to whom it is paid, does not so properly consist in the piece of gold, as in what he can get for it, or in what he can exchange it for." (Ibid. p. 274) ト言ヒテ或ル貨幣額ヲ以テ支拂ハル、所得モ亦實際ニ於テハ此貨幣ニヨリテ購ハルベキ財貨ヨリ成ルト言フガ如キ之ナリ。

以上ニヨリスミスノ學問ガ如何ニ物ノ經濟ニ立脚シタルカヲ略ボ明カニシ得タリト信ズ。スミスガ後ノ時代ヨリ見テ論難セラル、點ハ多々アリ、今一々之ヲ舉グル事ヲ須ヒザルモ、上述物ノ經濟ニ立脚シ、經濟生活ノ對象(即チ財)ノ方面ニ固執シテ、爲メニ今日吾人ノ要求スルガ如キ、經濟活動乃至經濟生活ソノモノ、真相ヲ充分ニ究明スル能ハザリシガ如キモ亦其缺點ノ一ニ數フベキモノニハ非ザルカ。以下更ニ現時ノ經濟學ニ對シ二三ノ問題ニ就テ批評ヲ試ムベシ。(未完)